

順調に推移するソウル便と台北便

アウトバウンド対策にも注力

米子鬼太郎空港

米子鬼太郎空港(佐斐神町)には、米子ソウル便、米子台北便と二つの国際定期便が就航。両路線とも順調な利用が続いています。同国際定期便の現状をレポートします。

米子ソウル便はことし4月2日に初就航から25周年を迎えました。同便は、2001年4月2日にアジアナ航空が週3往復で運航をスタート。

2016年に航路がエアソウルに移管され、諸般の事情で2019年10月からは非運航となっていました。2023年10月25日から運航を再開しました。

2025年12月23日からことし3月までは週7便とデーリー運航を実施していました。現在は週5便ですが、この間の搭乗率はおおむね90%以上で推移しています。

一方、台湾の航空会社「タイガーエア台湾」が運航する米子台北便は就航から1周年を迎え、ことし5月29日、米子鬼太郎空港で記念セレモニーが行われました。

同便は、月曜と金曜の週2往復で運航。初就航から5月29日までの搭乗者数は延べ3万782人で、平均搭乗率は81.4%。特に、昨年8月以降は8割超えが続き、好調を維持しています。

国際定期便利用促進協議会(事務局＝鳥取県国際観光課)は、酷暑となる夏の旅行控えによる搭乗者減少が懸念される中、利用促進を図るため「情報発信事業」を強化しているところです。また、現在は休止中となっている米子香港便、米子上海便の復活に向けた調整も継続中。

併せて、アウトバウンド対策として▽「米子ソウル便山陰ファンクラブ」の活動強化▽米子鬼太郎空港発の国際定期便を利用するグループに対する経費の一部支援▽同定期便を利用するためにまたは更新する場合の費用支援などを実

施し、利用者の拡大に努めています。

また、2016年10月23日にエアソウルが米子鬼太郎空港に就航し、今パスポートを新規取得、秋で10周年を迎えることから、各種記念キャンペーンを実施中です。

詳しくは、同協議会事務局(☎0857-26-7221)にお問い合わせください。



タイガーエア台湾の皆さんを歓迎する平井伸治・
鳥取県知事(前列右から4人目)ら